

1月22日（水）授業研究会

1 はじめに

呉市立川尻小学校 校長 山田 幸治 先生をお迎えし、4年3組で道徳科の授業研究会を行いました。山田校長先生には、発問の工夫等ご指導いただき、今後の授業づくりのポイントをご示唆いただきました。授業に向かう真剣な児童の様子と、感極まり涙ぐむ児童の様子に、参観者も心打たれる素敵な授業でした。また、本授業は6年目研修も兼ねており、大西先生の挑戦から、私たちも多くのことを学ばせていただきました。大西先生、宇多先生には、お忙しい中授業を提供していただき感謝しております。ありがとうございました。

2 研究授業

(1) 道徳科 主題名：大切な命【内容項目 D 生命の尊さ】

教材名：「走れ江ノ電 光の中へ」（東京書籍）

(2) 授業者 第4学年3組 担任 大西 幸子 教諭

生徒指導主事 宇多 弘典 教諭

(3) 本時のねらい

「とも君は、とも君のままがいい。」と言ったお父さんの気持ちを考えることを通して、生命のかけがえのなさを感じ取り、生命を大切にしようとする心情を育てる。



3 研究協議会

協議の柱1： 家庭や地域と一体となった体験活動との関連を図った「道徳学習プログラム」の工夫は、どうだったか。

協議の柱2： 児童の多面的・多角的な思考と価値観への気づきを促すための教師の発問の工夫はどうだったか。

(1) グループ協議会

上記の協議の柱をもとに、グループ協議で出された主な意見を紹介します。

- 保護者からの手紙が大変効果的だった。また、保護者への周知など下準備がきちんとなされていたので、ねらいがぶれずに全員が手紙を受け取ることが出来た。
- 発問を2つにしぼっていたのがよかった。子どもたちはしっかりと自分の考えを伝えていた。
- 受け取った手紙について話し合う時間がもっとあればよかった。教材と手紙がプツッと切れた感じがしたので、事前アンケートで、家族についてのマイナスの実態も出しておくのが良かったのでは。
- 児童はたくさん発言したが、キーワードを見つけるなどして、ねらいに迫れるよう焦点化するとよい。「命を大切にすることとは、どう生きること？」などのような発問を入れると、ねらいに迫れたのではないかと感じた。こうした発問が【D批判的な発問】になる。

(2) 指導講話

- 命は大切だと言うことを児童は、普段じっくり考えたり、実感として捉えることは少ない。実際に死に直面する機会も多くはない。だからこそ、こうした大きなテーマを道徳学習プログラムで考えている点が良い。
- 手紙を書いてもらうことを保護者にしっかり準備して依頼することにより、保護者自身にも生命について考えてもらうチャンスを与えた。学校での学習がきっと家庭で話題になるだろう。
- 朗読CDと絵本を使った教材の提示方法が有効だったので、児童が長い文章でもしっかり捉えることが出来た。
- 1つ目の発問について。とも君の周りの人たちの思いを児童はたくさん発言したが、ねらいに向けて収束させていくことも必要。この場合はとも君の命の期限があることが多くの人を動かした。「死」を感じさせても良かったと思う。
- 2つ目の発問について。「とも君はとも君のままがいい。」と言ったお父さんの気持ちを問う発問。ここでは、とも君が存在してくれるだけでよいということ捉えさせ、今ある命を一生懸命生きることの尊さを実感として考えさせたかった。
- 「質問があります。」など、友達の見解に関わろうとする児童の姿があった。今後は自分の考えと比べ、関わり合いのある発言を繰り返しながら、収束させていく授業を目指したい。
- 書く活動について。子供用の道徳学習プログラムシートやワークシートが1つにまとまるようノートを柔軟に利用していくとよい。
- 自分の生活に生かしていく振り返りの工夫をしていくとよい。



4 最後に

本校が行っている道徳学習プログラムを大変評価していただきました。また、「メニュー3」の委託を受けたことで、これまで、いろいろな家庭や地域と連携の仕方を提案していただきました。整理してみると次のような連携の在り方が見えてきます。

- ① 生命尊重や家族愛の内容項目で、まさに内容が家庭と密接に関連した内容で、手紙等協力を依頼した家庭との連携。
- ② 感謝や勤労・公共の精神等の内容項目で、内容が地域と密接に関連した授業内容で、地域の方の話を道徳学習プログラムに組み込んだり、ビデオレターなどで紹介したりした地域との連携。
- ③ 直接内容的に関連があるわけではないその他の内容項目（例えば友情・信頼）で、保護者の価値観を手紙等で知ることを教材化した、家庭との連携。

家庭や地域の連携に、こんなに豊かな方法があるとは、年度当初は思っていませんでした。先生方のおかげで、大きく研究が前進したことを感じています。残り少ない3学期ですが、2月4日には、最後の道徳科の授業研究会が行われます。成果と課題をしっかりと残し、来年度へつなげていきたいと思いません。